

「あいち国文」第十三号をお届けいたします。

今号にも沢山のご投稿をいただき、ありがとうございました。

八篇からなる論考・随想を大別し、それぞれを時代順に配列。その他毎号継続して掲載される『続学舎叢書』の翻刻や「あいち国文の会のあゆみ」は従来の位置に倣って収めました。

内容も『万葉集』を取り扱ったものから、第二次世界大戦に関わった近現代に至るまで、全時代に及んでいます。具象化した日本歴史が伝わってくるようです。

いずれも執筆者の誠実な視座を発想源とした豊かな論証によって、対象は活気を呈し、主題を追求しています。その一篇一篇が、独自の方向から独自の見解を展開している多様性。この多様性が読む者を牽引します。

改めて寄稿者に敬意を表します。多様なテーマを持ち寄った自由な寄稿内容は、執筆者にとって当然なこととは言え、ひとりひとりの思いを、人格を、尊重する「場」を形造っている貴重な存在です。基本的人権の根幹を造る表現の自由そのものです。こうした「場」が存続し、ささやかながらも文化が広く根付いていくことが願われます。次号より応募規定の一部が変更になりますが、皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

長谷川文子

編集委員（〇印は委員長）

浅井圭子 片山武 加藤彩 狩野一三 草川昇
熊澤美弓 小谷成子 小林宗治 杉浦邦子 鈴木喬
都築千枝子 名倉ミサ子 野崎典子 〇長谷川文子
山口比砂 山下達治 湯本明子（世話係 洲脇武志）